

No.344

平成30年11月

二三男くんの
未来日記
墨田区

暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい墨田区に
どこよりも素敵で魅力的なまちを目指す



23 TOKYO

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合



現在は大横川は埋め立てられ、親水公園に。
東京スカイツリー®が見える



町工場が並ぶ大横川沿川
(1957〈昭和32〉年当時の清平橋)

区政会館だより

巻頭特集記事

二三男くんの未来日記

03 第11回〈墨田区〉

暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい墨田区に
どこよりも素敵で魅力的なまちを目指す



この連載では、70年前からタイムスリップしてきた
二三男くんが、23区の「人口ビジョン」や「地方版
総合戦略」等を通じて23区の将来の展望を探ります。

●特別区長会事務局

- 08 不合理な税制改正等に対する
特別区の主張（平成30年度版）
- 10 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
大井競馬場で第2回魅力発信イベントを開催
第3回魅力発信イベント
「特別区全国連携プロジェクト協定締結記念
『第7回ぐんまの山村フェアin 東京2018』」
- 11 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
ラベンダー植栽イベントin Ranzanへ参加
地域創生ビジネス交流会2018へ参加
平成30年北海道胆振東部地震にかかる
被災地への職員派遣の状況
- 14 平成30年10月区長会の主な案件等

●特別区議会議長会事務局

- 14 平成30年10月議長会の主な案件等

●特別区人事・厚生事務組合

- 07 特別区職員研修所からのご案内
1月の研修メニューを紹介します
- 12 平成30年 特別区人事委員会
職員の給与等に関する報告及び勧告
～月例給は引下げ、特別給は5年連続引上げ～

- 13 特別区職員Ⅲ類採用試験及び障害者を対象とする
特別区職員採用選考 第1次試験・選考実施状況
- 18 70年前の証拠を捜し出す（訴訟事件事例紹介 338）

●公益財団法人特別区協議会

- 10 「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みについて
第3回魅力発信イベント
「特別区全国連携プロジェクト協定締結記念
『第7回ぐんまの山村フェアin 東京2018』」
- 14 東京都公文書館紹介展示
「東京150年 公文書と絵図が語る
首都東京の歴史」を開催
特別区自治情報・交流センター休館のお知らせ
- 15 首都大学東京オープンユニバーシティ
飯田橋キャンパスより12月開講講座のご案内です!!

●東京二十三区清掃一部事務組合

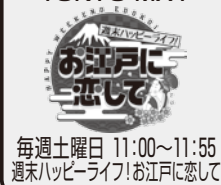
- 16 23区唯一のし尿処理施設
「品川清掃作業所」

●特別区競馬組合

- 19 11月・12月もTCKでは重要なレースが目白押し！
- 20 TCK INFORMATION

12月放送予定表

TOKYO MX1



毎週土曜日 11:00～11:55
週末ハッピーライフ!お江戸に恋して

▶ 区長にききたい東京ハッピーライフ

放送日	ゲスト区長
12月 1日 (土)	品川区 濱野 健 区長
12月 8日 (土)	世田谷区 保坂 展人 区長
12月15日 (土)	渋谷区 長谷部 健 区長
12月22日 (土)	目黒区 青木 英二 区長



TOKYO MX
番組配信サービス
「エムキャスト」
23区広報番組
毎週金曜日配信予定

配信開始日時	配信予定期間	提 供	番 組 名	サブタイトル（または放送内容）
12月 7日	12/7(金)～1/7(月)	大田区	シティーニュースおおた	大田区観光情報センターの紹介
12月14日	12/14(金)～1/14(月)	荒川区	こんにちは荒川区	下町の銭湯～梅の湯3代目栗田尚史が描く、銭湯の未来～
12月21日	12/21(金)～1/21(月)	練馬区	ねりまほっとライン	未定
12月28日	12/28(金)～1/28(月)	江戸川区	えどがわ区民ニュース	未定

※本誌発行時点では、新元号が定められていないため、平成31年以降の元号についても「平成」を使用しています。

暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい墨田区に

どこよりも素敵で魅力的なまちを目指す



大横川親水公園

「川がなくなってる……」

二三男くんは業平橋から見える景色を呆然と見ていました。

下町出身の二三男くんは、70年前、確かにここに川が流れていたことを覚えていました。江戸時代に明暦の大火をきっかけに作られた大横川という運河です。この大横川沿いにはかつて工場や倉庫が並んでいて、ものづくりのまち「すみだ」を象徴するエリアでした。

今、そこには緑が生い茂る親水公園があります。大横川があったことは公園の名前からしのべれますが、よく見てみると、業平橋のような昔ながらの橋が、川があった当時と同じように架けられています。かつて

町工場があった川沿いには、今は集合住宅などが立ち並んでいます。また、空を見上げれば雲を突き抜けそうなど高い塔、「東京スカイツリー」が見えます。昔のこの地域しか知らない二三男くんには想像もできない光景でした。

「墨田区がどう発展し、これからどうなるか」としているのか知りた

い」
二三男くんは、墨田区役所へ向かいました。

2000年以降は 転入超過

隅田川沿いに立つ墨田区役所を訪れた二三男くん。庁舎1階の総合案内で、同じフロアにある区民情報コーナーに案内してもらいました。

さっそく、二三男くんは『人口ビジョン』から読み始めました。

墨田区の総人口は、1995（平成7）年から1999（平成11）年にかけて若干の減少傾向にありましたが、2000（平成12）年以降、増加に転じています。1995（平成7）年に外国人を含み22万2080人だった総人口は、2015（平成27）年には25万8423人まで増加しています。同年5月には総人口は26万人を超えました。

この20年の区の人口増加に大きな影響を与えているのは、社会動態です。1999（平成11）年までは転入超過もしくは転入・転出がほぼ同じ数で推移していましたが、2000（平成12）年以降は転入超過の状態が続いています。都営大江戸線の開

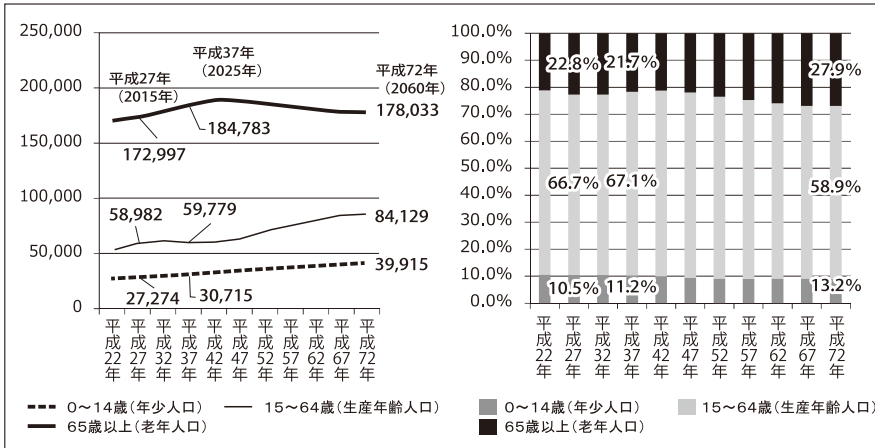
通（2000年）、東京メトロ半蔵門線の延伸（2003年）などによる交通便利性の向上や、曳舟駅周辺地区再開発の進捗をはじめとするまちづくりの推進、また、2012（平成24）年の東京スカイツリー開業による住宅地としての魅力向上などが要因として考えられます。

人口の将来展望

『人口ビジョン』では、こうした人口の現状分析の上に、今後の課題について、①さらなる高齢化の進行への対応②子育て世代等の転入の促進③多様な人々が暮らしやすいまちへ④若者が結婚しやすい環境づくり⑤経済価値を生みだし、生活者の利便性を支える産業の基盤づくりの五つをあげています。



■墨田区の将来人口推計(年齢3区分別人口)



将来人口の推計では、複数の仮定に基づくシミュレーションを行っていますが、出生率として2040(平成52)年に東京都民が希望する出生率1・76まで上昇するとし、現在の社会流入が徐々に縮小していくことを想定した社会移動率を用いた。パター

ンを見ると、総人口は徐々に増加し、2060(平成72)年には30万人を超えるという推計をしています。

その上で、人口の将来展望として、「活力ある年齢構成を維持するため、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境をつくり出す(ひとの自然増)」「若い世代を含む誰もが住み続けたい、また、住んでみたいと思える環境をつくり出す(ひとの社会増)」「観光等を活かした産業の活性化を図るとともに、安心して暮らし、働き続けることができます、また、働いてみたい環境をつくり出す(しごとやまちの力)」と示しました。

人口27万人を突破

墨田区の人口は着実に増加しています。2018(平成30)年4月5日には27万人を突破しました。「人口ビジョン」で2025(平成37)年の目標としていた27万5000人を、前倒しで達成することが見込まれています。

ここで社会動態を詳しく見てみると20歳代が突出しており、2012(平成24)年から2013(平成25)

2018年4月5日に墨田区人口は27万人を突破(右は山本区長)



年の平均値で見ると、20歳代ではおよそ2350人の転入超過となっています。特に東京圏外からの転入超過が目立ち、地方の若者が主に大学などへの進学や就職に伴って墨田区に転入していると推測されます。

一方、転出超過にあるのが0～4歳です。この年代の子どもが親とともに転出していることを考慮すると、20～40歳代のうち、ファミリー層は区外への転出傾向にあると言えます。

今後、高齢化が一層進行すると見込まれるなかで、人口構成が特定の世代に偏ることなく、様々な世代によつて適切に保たれるまちであり続けるためには、子育てを行う世代等をどのように増やしていくかが課題です。

三つの基本目標

続いて、『総合戦略』を読んできました。

『墨田区総合戦略』は、夢と希望を育む、どこよりも素敵で魅力的なまちをめざして、次の三つの基本目標で構成しています。

基本目標Ⅰ「暮らし続けたいまち」の実現では、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、子どもが育ちやすい環境を整備することで、誰もが夢や希望と誇り、愛着を持てるまちをつくり出します。また、安全・快適に暮らせる地域をつくり、多くの人が選択され、住み続けたいと思われるまちをつくり出します。

基本目標Ⅱ「働き続けたいまち」の実現では、ものづくり産業や地域の特色を活かした商業・サービス業のさらなる活性化を図るとともに、

「すみだ良質な集合住宅」の認定証と制度を周知するチラシ



誰もが生きがいをもって働けるまちをつくります。

基本目標Ⅲ「訪れたいまち」の実現では、歴史や文化、観光資源など、多彩な個性や魅力によるにぎわいを創出し、多くの人々が憧れるまちをつくります。また、地方との活発な交流を通して、ともに発展するまちをつくります。

二三男くんは、具体的な施策を調べてみることにしました。

暮らし続けたいまち

最初に、「暮らし続けたいまち」を実現するための施策です。

「すみだ良質な集合住宅認定制度」は、集合住宅の居住に関する様々な

機能について、ハード・ソフト両面

において特に配慮された集合住宅を、「すみだ良質な集合住宅」として認定する制度です。認定された集合住宅の情報は、墨田区のウェブサイトなどで公表し、区内での住み替えにおける良質な居住環境の指針となります。

認定は、「子育て型」と「防災型」の2種類あります。「子育て型」は、子育てに配慮した機能を有し、安心して子育てができる集合住宅で、段差解消や床衝撃音対策などを必要としています。「防災型（高度防災型・その他）」は、防災や災害に配慮した機能を有し、災害発生から3日間、避難所に行かずに生活ができる集合住

宅で、耐震性や、備蓄倉庫の整備などの機能が必須項目となっています。区は認定された集合住宅の整備費を補助するほか、居住者に対しても居住者間自主活動経費を補助します。

また、子育て世帯が区内に居住する親世帯と同居または近居するため住宅を取得した場合、費用の一部を助成する「墨田区三世帯同居・近居住宅取得支援制度」もあります。さらに子育て世帯が区内で民間賃貸住宅へ転居した場合、あるいは区内に居住する親世帯と同居または近居するために区内の民間賃貸住宅へ区外

から転入した場合も、転居費用の一部を助成する「墨田区民間賃貸住宅転居・転入支援制度」も実施しています。

これらは現在、墨田区の人口増加を牽引する20歳代の若い人たちに、区内で結婚し、子育てし、これからは墨田区で暮らし続けてもらおうという意欲を感じる施策です。

働き続けたいまち

江戸時代から日用品や生活用品を作る職人が多く住み、「ものづくりのまち」として発展してきた墨田区。しかし、最近では、「ものづくりの



次代を担う経営者を育成する「フロンティアすみだ塾」





まち」を支えてきた町工場が減っています。1970年代に9800社ほどあった町工場が、現在では2100社ほどまで減ってしまいました。「暮らし続ける」には、働く場所が必要です。そこで、「働き続けたいまち」にも力を入れています。

墨田区や関係機関、区内中小企業経営者などで組織する「すみだ次世代経営研究協議会」では、後継者や若手経営者を対象に、私塾形式のビジネススクール「フロンティアすみだ塾」を開講し、中小企業の事業を継承し、次代を担う経営者を育成しています。

この塾では、塾生が年齢や業種を超えた仲間と切磋琢磨する中で自社の進むべき道を見極め、経営者としての第一歩を踏み出す力を培います。

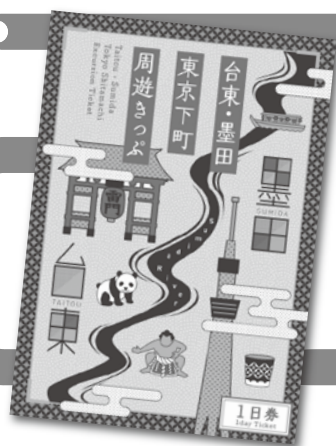
訪れたいまち

10月1日から墨田区、台東区、東武鉄道株式会社、東武バス株式会社が連携した「台東・墨田 東京下町周遊きつぷ」の発行が始まりました。東武鉄道のスカイツリーライン（浅草～北千住・曳舟～押上）・亀戸

「下町周遊きつぷ」でも乗車できる墨田区の循環バス



台東区と墨田区を回るのに便利な「台東・墨田 東京下町周遊きつぷ」



線（曳舟～亀戸）、東武バスのスカイツリーシャトル上野・浅草線、墨田区内循環バス「すみだ百景 すみまろくん・すみりんちゃん」全ルート、台東区循環バス「めぐりん」全ルートに乘車でき、特典として墨田区・台東区内の美術館・博物館や店舗などで乗車券を提示すると、入館料の割引やプレゼントなどのサービスを受けることができます。販売価格は1日券500円、2日券700円。

東京スカイツリー（墨田区）や浅草雷門（台東区）は日本を代表する観光スポットで、毎日、多くの観光客が訪れています。でも、彼らがせっかくスカイツリーや雷門を訪れてくれても、その地域の魅力を存分に味わっているとは限りません。これらの観光スポットを訪れた人たちがこの周遊きつぷを使って、すみだ北斎美術館や両国国技館、江戸東京博物館などがある両国地域を訪れたり、東京で数少なくなってきた風情のある銭湯でひとつ風呂浴びるなど、墨田区の魅力に触れることができれば「訪れたいまち」になるかもしれません。

墨田区が好きになる

墨田区の人口が着々と増えているのは、このまちに愛着と誇りを持っている区民が増えている証拠でもあります。

二三男くんは「東京スカイツリーが開業して、墨田区の街の魅力が向上した。その魅力に惹かれて墨田区に引っ越してくれた人たちが、この街で子育てし、暮らし続け、働き続けることができるよう、墨田区が様々な仕掛けを打っていることが分かった。スカイツリーを訪れた人たちが区内のものづくり産業や伝統文化などにも触れることで、墨田区を好きになってくれたら、またここに住んでみたいという人も増えるんじゃないだろうか」と思いました。

墨田区のことを学んだ二三男くんは、この街がすっかり気に入ったようです。二三男くんは「大相撲九月場所で盛り上がった国技館は今、どうなっているんだろうか」と、「台東・墨田 東京下町周遊きつぷ」を使って、両国方面まで足を伸ばすことにしました。